

ペグインターフェロン・リバビリン併用療法後の予後に関する研究

1. 研究の対象

2014 年 6 月までに、当院で C 型肝炎に対してペグインターフェロン・リバビリン併用療法を受けられた方

2. 研究目的・方法

C 型肝炎は、C 型肝炎ウイルス (hepatitis C virus : HCV) の持続感染により肝炎が持続し、慢性肝炎から肝硬変、肝細胞癌の経過を辿る疾患です。一方、インターフェロン (interferon : IFN) を用いた抗ウイルス治療により HCV が排除されると、肝炎が鎮静化し、肝線維化の進展や肝癌の発生が抑制され、生命予後が改善することが明らかとなっていますが、HCV 排除後に肝癌を発症する症例も少なからず存在します。そこで、ペグインターフェロン・リバビリン併用療法を受けられた方の臨床経過を調べて、HCV 排除後の肝癌の危険因子や、HCV 排除後の肝癌の特徴について明らかにするために検討を行います。

研究期間 : 2016 年 07 月 11 日 ~ 2030 年 12 月 31 日

3. 研究に用いる情報の種類

情報 : 年齢、性別、病歴、血液検査結果、肝病理組織所見、画像検査所見、生存状況 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先 :

大阪急性期・総合医療センター

消化器内科 主任部長 薬師神崇行

電話番号:06-6692-1201

研究責任者 : 大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学 疋田隼人

5. 共同研究機関

国立病院機構大阪医療センター 阪森亮太郎
国立病院機構大阪南医療センター 中西文彦
国立病院機構南和歌山医療センター 山本佳司
大阪労災病院 法水淳
関西労災病院 山口真二郎
大阪けいさつ病院 宮崎昌典
大阪国際がんセンター 大川和良
大阪急性期・総合医療センター 薬師神崇行
公立学校共済組合近畿中央病院 柄川悟志
国家公務員共済組合連合会大手前病院 土井喜宣
JCHO 大阪病院 巽信之
兵庫県立西宮病院 飯尾禎元
箕面市立病院 中原征則
市立池田病院 石田永
市立伊丹病院 今中和穂
市立豊中病院 西田勉
市立吹田市民病院 吉田雄一
市立芦屋病院 竹田 晃
西宮市立中央病院 小川弘之
八尾市立病院 榊原充
市立東大阪医療センター 名和誉敏
市立貝塚病院 垣田成庸
住友病院 山田晃
大阪府済生会千里病院 由良守
加納総合病院 久保田真司
明和病院 早川勇二
大阪回生病院 谷村博久
笹生病院 西内明子